

フェアトレードとは？

開発途上国から原材料や製品を不当に安く買うのではなく、適正な価格で継続的に買い取る取引のことをフェアトレードといいます。

私たちがフェアトレード商品を購入することによって

適正な価格で継続的に購入されると、生産者が安定した生活を送れるようになります。



子どもたちが働かずにすみ 農薬の大量使用がなくなり
学校へいけるようになる 産地の環境や生産者の健康が守られる

どんなものがフェアトレードの商品なの？

商品がフェアトレードの基準に見合った方法で作られていることを保証するラベルがあります。その一つに、国際フェアトレード認証があります。生産者への適正な価格の支払い、労働環境保護、農業使用規制、等の国際フェアトレード基準をクリアした製品には認証ラベルがついています。国際フェアトレード認証の対象商品は、コーヒー、カカオ、コットン、紅茶、バナナ、花、スポーツボールなど多岐にわたります。



国際フェアトレード
認証ラベル

フェアトレードタウンとは？

フェアトレードタウンは、市民、行政、企業などが一体となってフェアトレードを広げる運動を行っているまちのことです。いま世界中で広がりをみせています。日本では、一般社団法人日本フェアトレード・フォーラムが定めた、6つの基準を満たすとフェアトレードタウンに認定されます。

- 1 推進組織の設立と支持層の拡大
- 2 運動の展開と市民の啓発
- 3 地域社会への浸透
- 4 地域活性化への貢献
- 5 地域の商業施設によるフェアトレード製品の幅広い提供
- 6 自治体によるフェアトレードの支持と普及

日本では、熊本市（熊本県）、名古屋市（愛知県）、逗子市（神奈川県）、浜松市（静岡県）、札幌市（北海道）、いなべ市（三重県）が認定されています。認定を目指して活動を行っている団体が日本各地にあります。



2019年9月に、日本で6番目にいなべ市がフェアトレードタウンに認定されました。
(写真中央左:いなべ市長 中央右:羽場さん)

羽場さんは、旅行でミャンマーを訪れたことがきっかけで、麻薬の代替作物として、そばを栽培することで現地の生産者が自立できるように支援するNPOに、2012年から所属して活動を行っていました。活動を続ける中で、まちぐるみでフェアトレードを普及するフェアトレードタウン運動に出会います。勉強会やイベントに参加して、その魅力を知ろうちに「いなべ市もフェア

フェアトレードタウンを 目指すきっかけ

フェアトレードを通じて、まちを元気にする活動を続ける「いなべフェアトレードタウン」代表の羽場典子さんにお話を伺いました。羽場さんはいなべ市がフェアトレードタウンに認定されるためにも尽力しました。

トレードタウンになったらいいな」と思うようになっていきました。そして偶然、いなべ市長に出会ったことで大きな転機が訪れます。フェアトレードタウンについて思いを伝えると市長の賛同を得ることができたのです。そこから友人らとともに、2018年に団体を設立し、行政と協働して認定に向けて動き出すことになりました。自分の住む地域では、高齢化が進み閉店するお店が増えて、まちに活気がなくなっていくことを心配していた羽場さんは、「自分たちが活動することで、お店やまちの活性化につながればいいな」という思いがありました。

いなべフェアトレードタウンの誕生

フェアトレードタウンに認定されるためには、そのまちに住む人たちにフェア

トレードについて広く知ってもらうことが必要です。イベントの開催や開催を通して、フェアトレード商品の販売や啓発をしました。またフェアトレードチョコレート料理教室や、学校で授業を行い、子どもたちにフェアトレードについて伝える活動を行いました。認定には、羽場さんたちの活動が認められたことはもちろんのこと、活動を進める中で、他の団体や企業と協力・連携できたことや、市議会議員の方々に「いなべ市のためになることだから」と理解を得られたことが力となりました。また市内に10年以上前からフェアトレードの商品を取り扱うお店があったことなどもあり、団体発足から1年半でタウン認定されることになったのです。



(上)いなべ総合学園高等学校での授業
(下)放課後子ども教室での料理教室



▲桐林館で主催したイベントで、フェアトレードのコーヒーや雑貨などを、販売しました。